



俳人。松山城下(現、松山市)出身。本名は清^{きよし}。伊予尋常中学校(現、県立松山東高等学校)に入学し、一歳年上の河東碧梧桐^{かわひがしへき}と同級となり、碧梧桐をとおして正岡子規に師事するようになり、子規から虚子の俳号を授かる。明治26(1893)年、京都の第三高等中学校(現、京都大学)に碧梧桐とともに進学し下宿を共にした。

子規に影響を受けて碧梧桐とともに文学、俳句に関心を持ち俳句革新運動に参加する。一時、小説に熱中して俳句から遠ざかったことがあったが、初志に帰り俳壇に復帰した。碧梧桐の新傾向に対して自ら守旧派と称し、子規の客観写生を広げて17字の定型と季題を守った花鳥諷詠^{かちょうふうぎ}を説き、俳壇の主流となった。主宰する『ホトトギス』は、大正・昭和期には、全国一を誇る俳誌となり、多くの俊秀を輩出し、ホトトギス王国を築いた。

略歴

明治7(1874)年2月22日	松山城下の長町新町 ^{ながまちしんちょう} に、旧松山藩士・池内信夫の四男として生まれる。
明治15(1882)年	祖母の家を継いで高浜姓を名乗る。
明治21(1888)年	伊予尋常中学校に入学
明治24(1891)年	河東碧梧桐らと「松山俳句会」を結成。正岡子規から「虚子」の号を受け、子規に兄事
明治26(1893)年	京都の第三高等中学校に入学し、河東碧梧桐と一緒に下宿する。
明治27(1894)年	仙台の第二高等中学校(現、東北大学)に転学するが、退学して子規を頼り上京
明治31(1898)年	俳誌『ほととぎす』を東京に移し、編集に従事
明治38(1905)年	夏目漱石に勧めて書かせた「吾輩は猫である」や「坊っちゃん」を『ホトトギス』に掲載するなど小説に熱中し、俳句から遠ざかる。
明治43(1910)年	新聞社を退社して『ホトトギス』の編集に専念する。
大正2(1913)年	俳壇に復帰。「春風や鬪志いだきて丘に立つ」の句を詠み新傾向俳句に立ち向かう覚悟を示す。
昭和22(1947)年	石田波郷 ^{いしだはきょう} らと現代俳句協会を結成
昭和23(1948)年	愛媛新聞「愛媛俳壇」の選者となる。
昭和26(1951)年	『ホトトギス』の雑詠選を長男の高浜年尾に譲る。
昭和34(1959)年4月8日	85歳で永眠

(写真提供：虚子記念文学館)

〈関連図書〉

- ・高浜虚子『高浜虚子全集 全十五巻』 高浜虚子 1974年
- ・『日本人の自伝(田山花袋、高浜虚子、金子光晴) 17』 平凡社 1981年
- ・『現代日本文学大系(高浜虚子・河東碧梧桐集)』 筑摩書房 1985年
- ・池内友次郎『父・高浜虚子』 永田書房 1989年
- ・山口誓子『高浜虚子研究』 右文書院 1991年
- ・大野林火『高浜虚子』 日本図書センター 1993年
- ・恩田甲『入門高浜虚子』 おうふう 1995年
- ・愛媛新聞社出版局出版部『郷土俳人シリーズ3 高浜虚子』 愛媛新聞社 1997年
- ・中岡毅雄『高浜虚子論』 角川書店 1997年

〈主な収蔵資料〉…(P224, 124~125)

〈ゆかりのある場所〉…(P309~310, 183~186)

〈関連施設〉…鎌倉文学館

〒248-0016 神奈川県鎌倉市長谷1-5-3 TEL: 0467-23-3911

虚子記念文学館

〒659-0074 兵庫県芦屋市平田町8-22 TEL: 0797-21-1036